

# 令和5年度福島県入札制度等監視委員会の意見聴取について

聴取団体：福島県建設専門工事業団体連合会

それぞれの質問について枠内にお答えください。なお、特にことわりがないものは貴連合会としての内容をお答えください。

## 第1 入札・契約制度に関する課題

### 1 入札・契約制度全般について

県の入札・契約制度全般について、連合会として、日頃感じていることや課題と捉えていることについて伺います。

私たちは直接入札する立場、というわけではありません。それ故、現状の入札や契約制度全般に対して直接的に影響を受けることは少なく、課題としての優先順位も高くはありません。

日頃感じている事と言えば、結局『何も変わっていない』と言う現実でしょうか。

今回の情報漏洩のように、『やってしまったら悪いこと』とは分かっているものの、それをしてしまうのは『やれる環境がある』からに他なりません。犯罪を起こさないように法を定めモラルティを教育しても、犯罪を起こす者たちには意味はありません。彼らを取り締まる為には防衛策ではなく具体的な『懲罰』が必要なのです。犯罪を起こすメリットが犯罪を見つけられた時のデメリットより大きい限り、この手の犯罪は押し留めることはできないでしょう。

安全装置は機能しているからこそ意味があるのであって、設置すること自体にはほぼ意味はありません。

社会的なモラルティの高さが犯罪の抑止力になっていた時代ではないことに気づくべきだと思います。

## 第2 建設業界を取り巻く社会情勢や課題について

### 1 作業員の高齢化や労働者不足について

労働者不足に関して、取り組んでいる対策等について伺います。

定年後の再雇用制度や新規就労者の募集等を行っています。

労働条件等については新しい方針に従って改善を行っています。

とは言うものの、特に新規就労者の確保については芳しくないのが現状です。市場として成熟してしまっており、そこから得られる利潤がある程度決定してしまった業界内では、業務を独占することも、人員を確保することによって得られる収益性も期待されない為、思い切った待遇改善等も難しいのが現状です。ましてや、屋外での肉体労働が原則であるこの業界にあっては、今以上のメリットがない限り新規就労者も期待薄ですし、だからと言って従前の労働者に対する待遇を相応に引き上げることができるかという問題も同時に発生します。

様々な対応も即効性を期待できず、減衰するスピードには現状追いついていません。

## 2 労働者の処遇改善について

労働者の福利厚生現状、週休二日や賃金向上への取り組みについて伺います。

労働者として安定した環境を提供する為に各種制度の整備を行い、労働者への制度の活用を促しています。コロナ下での適正な防疫措置としての休日の取得や行動の見直し等によって否応なしとは言え労働時間の抑制や有給休暇の消化等も意識されてきており、結果論的に言えば大きく改善されてきていると思います。

とは言え、そもそも論とすれば、労働者の生活の安定化を図る為には企業運営の安定化が必要であると考えており、週休二日制の完全実施や賃金上昇の為には名目的な理想論ではなく、業界及び社会全体での実質的な現実論の徹底が必要であり、各企業単位での努力による取り組みばかりではなく、行政としての強力な指導も必要ではないかと考えます。

## 3 元請・下請契約の課題について

工期の設定や変更契約などにおいて、元請けと下請け間の契約に関する課題等について伺います。

トラブルは少なくなってきましたが、元下としての力関係は相変わらずです。かと言って、それが現状においての致命的な問題だとは考えていません。

それよりも問題なのは、工期の設定や変更契約等が発生して『当然』な私たちの仕事において、それをすることを拒んだり、後々の評定においてマイナスの査定を行う環境が今なお存在すると言う点です。

変更があれば原則的にどの立場であっても困ることになるわけですが、適正な変更を不当に査定されるのであれば弱い立場程口を閉ざすしかありません。様々な理由はありますが、現場から上がってくる悲鳴を不都合と言う都合で閉ざさないで頂きたいと思います。

## 第3 コンプライアンスについて

### 1 コンプライアンスの取り組みについて

①先般の入札関連情報漏洩に伴う贈収賄事件を受け、協会として事件をどのように捉え、また、コンプライアンスにどのように取り組んでいるか伺います。

情報漏洩も贈収賄も『悪いこと』とは分かっているにもかかわらず。私たちの現場での労働災害のようなものです。『現場猫』と言うキャラクターが生み出されたように、安易な気持ち、結果を想定できない無思慮、これを放置している環境をそれぞれに正さない限り腐ったミカンは無くならないのだと思います。

私たちは、このようなトラブルの数を減少させ、トラブルによる被害を減少させる努力を日々しています。また、閉鎖的で自己的な判断に拘ると偏った結論ばかりを導きやすくなるので、様々な意見を取り込むようにしています。

結論的に、私たち人間がミスを犯す存在である限りトラブルが『絶対に』無くなることはないと考えています。

②今回の不祥事を受け、県では不正防止策を取りまとめたところですが、その対策について意見等があれば伺います。

どんな施策も正しく実行されなければ意味はありません。

正邪は絶対的なものではなく相対的なものであると言われますが、法が目指すものがどれだけ正しいものであっても、状況や環境、タイミングなどにより法を守るべき立場であってもその重みは異なってきます。

徹底化を図るのであれば、罪に対する罰を明確に重くするのが効果的です。その程度の罪でそこまで罰するのはやりすぎだ、と述べる者はその罪を犯す可能性を認知している場合が殆どであり、自らが罰せられる可能性を回避したいと思っていることが常となります。

公民としての立場を重く受け止められない者に社会の資源を取り扱わせる必要はありません。